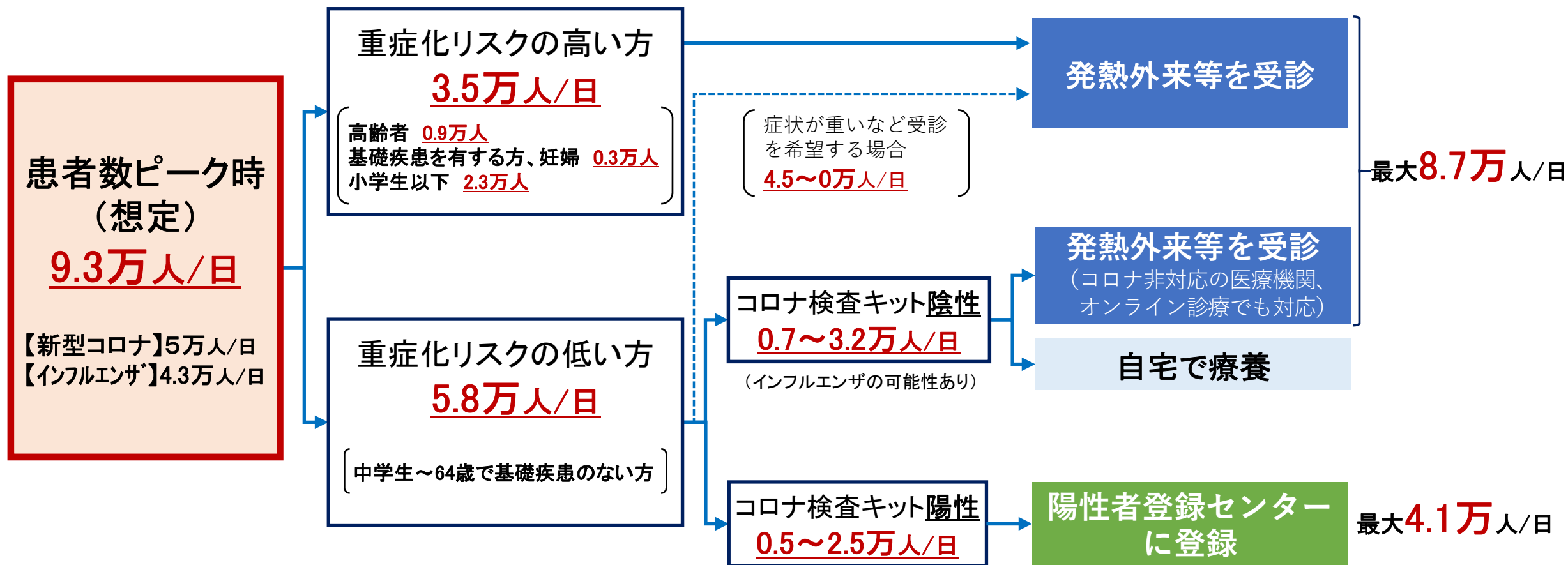


外来医療体制整備計画 今冬のピーク時における患者数の想定

コロナとインフルの同時流行も念頭において、**過去最大規模の患者数を想定**



※端数処理の影響で内訳の計が一致しない場合がある ※中学生～64歳で自己検査をする方の割合(20% ~ 95%)

※発熱外来等を受診し、コロナ陽性と診断された患者のうち、**3.2～1.6万人/日**が陽性者登録センターに登録

外来医療体制整備計画 発熱外来等の体制

✓ 発熱外来等を受診する可能性のある方 最大8.7万人/日 に対して、診療可能人数 **12.7万人/日**を確保

	平日	土	日・祝
発熱外来等の診療可能人数	10.2 → 12.7万人/日 (+2.5万)	5.7 → 7.8万人/日 (+2.1万)	1.7 → 3.1万人/日 (+1.4万)

※自己検査で新型コロナ陰性が判明した方は、コロナ非対応の医療機関も対応

- **診療・検査医療機関を更に拡大** (約4,800機関、診療時間の延長等)
- 診療・検査医療機関以外の**小児科**における**発熱診療体制を強化** (約1,100機関)
- **都立病院**における**発熱外来を強化**、地区医師会等の**地域外来・検査センターの体制を拡充**
- **都臨時オンライン発熱診療センター**の設置
- 発熱相談センター：700回線→**最大1000回線に増強** (12/1～)、「**小児救急相談 (#8000)**」を拡充

✓ 陽性者登録センターの登録見込数 最大4.1万人/日 に対して、登録対応能力 **4.1万人/日**を確保

	毎日
陽性者登録センターの登録対応能力	0.8 → 4.1万人/日 (+3.3万)

今冬の感染拡大に向けた医療提供体制①

重症化リスクの高い方に、発熱外来を受診していただき、確実に医療に繋げることが必要

- ・**診療・検査医療機関を更に拡大**（7月末：約4,700機関⇒11/13時点：約4,800機関）
（診療時間の拡大、かかりつけ患者以外の対応、診療所の施設整備支援、年末年始の協力金支給等）
- ・診療検査医療機関以外の**小児科における発熱診療体制を強化**（約1,100機関）
- ・**都立病院における発熱外来を強化**（1,000人/日）（12月～）
- ・診療所の**検査機器整備を支援**し検査能力を増強済
- ・地区医師会等の**地域外来・検査センターの体制を拡充**
- ・**都臨時オンライン発熱診療センターの設置**
- ・自己検査で新型コロナ陰性が判明した方は、コロナ非対応の医療機関も対応

- ・陽性者登録センターの対応能力の引上げ（8千人/日 ⇒ **最大4.1万人/日**）
- ・自宅療養者FUC：4か所 感染拡大状況に応じて看護師を増員（600名 ⇒ **最大800名体制**）、患者からの相談可能人数を引上げ：3,600人/日 ⇒ **最大4,800人/日**

- ・発熱相談センター：700回線 → **最大1000回線に増強**（12/1～）
- ・看護師等が対応する「**小児救急相談（#8000）**」を拡充（12月～、24時間化、最大回線数を5 ⇒ 15回線）

発熱外来等

周知啓発

- ・外来医療ひっ迫状況に応じて、**重症化リスク等に応じた受診・療養行動**を都民に呼びかけ
- ・薬局等との連携（**セルフケア特設コーナーの設置**など）

今冬の感染拡大に向けた医療提供体制②

検査体制

検査全体で**最大約40.7万件/日**の体制確保

(行政検査12.4万件、集中的検査等約11.3万件、無料検査約5万件、キット配付:濃厚接触者向け5万件、有症状者向け7万件)

供給不足を見据え、**抗原定性検査キットを予め確保**(11/15時点の確保数 約380万キット)

行政検査 **検査体制最大約12.4万件/日**(第7波時の最大実績約6.2万件/日)

発熱外来で検査キットが不足する場合、**都が確保している検査キットを医療機関に有償配布**
インフルエンザとの同時流行を見据え、**同時検査キットを確保**(30万キット確保済、更に30万キット確保)

集中的検査 入所系施設:PCR週1回+抗原定性週1~2回、通所・訪問系施設:抗原定性週2~3回

無料検査 検査体制約5万件/日:当面の間延長(一般検査事業)

検査キット配布 有症状者向け(7万件/日、9/26~全年代に拡大)、濃厚接触者向け(5万件/日)

自宅療養体制

発熱相談センター:700回線→**最大1000回線**に増強(12/1~)【再掲】

自宅療養者FUC:4か所 **感染拡大状況に応じて看護師を増員**(600名→**最大800名体制**)【再掲】

自宅療養サポートセンター(うちさぽ東京):**400回線→最大450回線**に増強(12/1~)

食料品配送:**在庫30万食、最大10.7万食/週**を製造(配送能力最大2.1万件/日)

パルスオキシメーター:**43万台**を確保

療養者の緊急対応用の**酸素濃縮装置(1,200台)**を運用

新規陽性者数の拡大状況に応じて、健康観察の重点化

今冬の感染拡大に向けた医療提供体制③

医療機関等

通常医療との両立を踏まえた必要な病床の確保(11/17にレベル2 7,262床に引上げを要請)
(最大確保病床7,496床、冬は降雪時の骨折対応や心疾患対応等、より通常医療との両立を図る必要)

新たに救急受入可能な**高齢者等医療支援型施設4施設を開設** (青山(91床・12月初旬)、他3施設)

高齢者等医療支援型施設の機能強化: 渋谷(11/1~救急患者の受入れを開始)、赤羽(高齢者への対応力を強化)

酸素・医療提供STの高齢者への対応力強化(ADL等低下予防のためデイスペース設置、介護が必要な方のポータブルトイレの増設、救急の夜間入所者用ベッドの設置等)

感染拡大時の療養体制の考え方を保健所や医療機関に改めて周知(11/8)(冬に向けた救急医療需要の高まりや第7波を踏まえ、重症度やリスク因子など優先度に応じた入院調整・療養方針の決定を徹底)

夜間入院調整窓口:6⇒10回線に増強(11/21~)

軽症者等の臨時の医療施設、酸素・医療提供ST、回復期支援病院への転院や、宿泊療養施設や自宅等への退院を促進

通常医療と感染症医療の両立に向け、病院におけるゾーニングなどの施設整備への支援

宿泊療養施設

第7波を踏まえた必要な居室数の確保(現在約9,000室⇒11/17にレベル2 約11,000室に引上げ)

多摩地域での**新規施設開設**(感染拡大時療養施設(立飛・高松)の機能転換)

ピーク時の入所調整の強化:直接申込窓口100→**140回線に増強**(12/1~)

多摩地域での**搬送の迅速化**(増車等により、複数乗車の機会を低減)

感染拡大状況に応じて、50歳以上や重症化リスクの高い方、早期隔離が必要な方を重点的に受入

病床確保レベルの引上げ

病床確保 レベル1

確保病床数
5,283床

〔うち 重症者用 420床〕

病床使用率が、
40%超 かつ 上昇傾向 など

病床確保 レベル2

確保病床数
7,262床

〔うち 重症者用 420床〕

※「重症者用」はオミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床

※「確保病床数」は一部の臨時の医療施設を含む

- ✓ 中等症・軽症の確保病床数を、**病床確保レベル2**に引上げ
ただし、救急などの状況を踏まえ、柔軟に対応
- ✓ **通常医療との両立**を図る観点から、オミクロン株の特性を踏まえた**重症者用**の確保病床数は**レベル1**の病床数を維持

今冬の感染拡大に向けた医療提供体制③（再掲）

医療機関等

通常医療との両立を踏まえた必要な病床の確保（11/17にレベル2 7,262床に引き上げを要請）
（最大確保病床7,496床、冬は降雪時の骨折対応や心疾患対応等、より通常医療との両立を図る必要）

新たに救急受入可能な**高齢者等医療支援型施設4施設を開設**（青山(91床・12月初旬)、他3施設）

高齢者等医療支援型施設の機能強化：渋谷(11/1～救急患者の受入れを開始)、赤羽(高齢者への対応力を強化)

酸素・医療提供STの高齢者への対応力強化（ADL等低下予防のためデイスペース設置、介護が必要な方のポータブルトイレの増設、救急の夜間入所者用ベッドの設置等）

感染拡大時の療養体制の考え方を保健所や医療機関に改めて周知（11/8）（冬に向けた救急医療需要の高まりや第7波を踏まえ、重症度やリスク因子など優先度に応じた入院調整・療養方針の決定を徹底）

夜間入院調整窓口：6⇒10回線に増強（11/21～）

軽症者等の臨時の医療施設、酸素・医療提供ST、回復期支援病院への転院や、宿泊療養施設や自宅等への退院を促進

通常医療と感染症医療の両立に向け、病院におけるゾーニングなどの施設整備への支援

宿泊療養施設

第7波を踏まえた必要な居室数の確保（現在約9,000室⇒11/17にレベル2 約11,000室に引き上げ）

多摩地域での**新規施設開設**（感染拡大時療養施設（立飛・高松）の機能転換）

ピーク時の入所調整の強化：直接申込窓口100→**140回線に増強**（12/1～）

多摩地域での**搬送の迅速化**（増車等により、複数乗車の機会を低減）

感染拡大状況に応じて、50歳以上や重症化リスクの高い方、早期隔離が必要な方を重点的に受入

宿泊療養施設の施設稼働レベルの引上げ

施設稼働 レベル1

現在の稼働居室
約9,000室

うち

医療機能強化型 290室

妊婦支援型 50室

新規陽性者数が 増加傾向 かつ
10,000人を超過 など

施設稼働 レベル2

稼働居室
約11,000室

うち

医療機能強化型 290室

妊婦支援型 50室

- ✓ 施設稼働レベルを、レベル1からレベル2に引上げ
- ✓ 各施設の休止フロアを再開
- ✓ 感染拡大状況に応じて、50歳以上や重症化リスクの高い方、早期隔離が必要な方を重点的に受入

今冬の感染拡大に向けた医療提供体制④

高齢者 対策

高齢者等施設入所者の確実な5回目接種促進（接種間隔短縮を踏まえ、接種計画策定の働きかけ・ワクチンバス派遣）

施設の感染制御・業務支援体制の強化：即応支援チーム派遣体制（10施設/日）、
保健所からの感染情報等に基づいた能動型支援の開始

高齢者施設への往診体制強化：施設向け医療支援チーム体制（25地区医師会）

高齢者施設等職員の頻回検査（週2～3回）を実施、高齢者施設に入所者用検査キットの事前購入を支援

高齢者等医療支援型施設4施設を開設（11/下旬～）、**同施設（渋谷）で救急患者受入開始**（11/1～【再掲】）

酸素・医療提供STの高齢者への対応力強化【再掲】

コロナ治療が終了した高齢者の療養病床への転院促進

子ども 対策

診療・検査医療機関を更に拡大（小児）【再掲】

看護師等が対応する「小児救急相談（#8000）」を拡充（12月～、24時間化、最大回線数を5→15回線）【再掲】

インフルエンザとの同時流行を踏まえた「保育施設における感染症対策リーフレット」の改訂

保育所等職員の頻回検査（週2～3回）を実施

体調不良の場合に登校・登園を控えることを徹底（教職員も同様）

教職員等への新型コロナワクチン接種の促進、小児向けインフルワクチンの接種推進の周知強化

保健所支援

都職員の派遣（約100名）、都保健所での人材派遣の活用（最大約200名（看護職約140名、事務職約60名））

今冬の感染拡大に向けた医療提供体制⑤

感染拡大防止

冬でも窓開けや換気扇で換気を徹底、特に混雑した場所や会話をする際はマスクを着用、体調に異変がある場合は、イベントや旅行の参加を控えるよう、呼び掛け

モニタリング・サーベイランス

東京iCDC及び医療体制戦略ボードなど専門家を含めた健康危機管理体制を強化
今冬の感染拡大に向けた課題と対応の方向性を医療体制戦略ボードにヒアリング実施

感染拡大や変異株に備えた監視体制：BQ1.1系統やXBB系統に対応した変異株PCR検査の開始

ワクチン

オミクロン対応ワクチン接種の加速（BA1対応：9/22～、BA5対応：10/14～）

- ・ **高齢者・障害者施設入所者の確実な5回目接種推進**（接種時期前倒しの働きかけ・ワクチンバスの重点的な派遣）
- ・ **都・大規模会場**での予約なし接種、利便性の高い駅近等に**臨時の接種会場**を設置
- ・ **Tokyoワクションアプリの活用**（3回以上接種者を対象に特典提供）、「**ただいま東京プラス**」などWebサイトでの接種促進
- ・ **HP、SNS、デジタルサイネージ**（渋谷スクランブル交差点等）、**Web広告、広報東京都**等を活用した呼びかけ
- ・ 区市町村と連携し、**イベントや商店街**等でのポスター掲示、**業界団体や飲食店コロナリーダー**を通じた呼びかけ
- ・ **都営地下鉄全駅**での構内放送、区市町村等の庁有車・防災無線、**アドカー**による呼びかけ
- ・ 企業や大学に団体接種を働きかけ、専門家からワクチン接種の効果や必要性を発信

インフルエンザワクチン接種促進

- ・ 65歳以上の方等にインフルエンザワクチン**予防接種の自己負担額の補助**
- ・ 都大規模接種会場での高齢者への新型コロナとインフルエンザの**ワクチン同時接種実施**（10/14～）
- ・ インフルワクチンの**小児向け接種促進**の周知強化【再掲】

『新型コロナワクチン接種キャンペーン 2022秋冬』の取組

区市町村や関係機関と連携した取組

- 区市と連携し、**駅近に予約なし**で接種できる**臨時接種会場**を設置

【**錦糸町駅**】丸井錦糸町店6階
11/25(金)、11/26(土)、12/16(金)、12/17(土)

【**金町駅**】葛飾区立中央図書館
12/2(金)

【**国立駅**】国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ
11/23(水・祝)、12/23(金)

【**南大沢駅**】イトーヨーカドー南大沢店2階
12/11(日)

- **高齢者施設等にワクチンバス**を重点的に派遣

社会経済との両立に向けた取組

- 業界団体と連携した、**飲食店や駅ビル等**での接種の呼びかけ
- ワイドコラボ協定企業による社員や来客者に対するワクチン接種の呼びかけ

広報媒体等の活用による普及啓発

- **新宿駅西口広場及び新宿副都心4号街路地下歩道**において音声放送による接種を呼びかけ

この冬、発熱などの症状が出たら・・・

重症化リスクの高い方*、小学生以下の子供
（* 高齢者、基礎疾患がある方、妊婦 など）

👉 発熱外来（診療・検査医療機関） を受診

かかりつけ医がいる場合は、
まずはかかりつけ医にご相談ください。



診療・検査医療機関
マップ・一覧



重症化リスクの低い方
（左記以外の方）

👉 ご自身で新型コロナの抗原検査キット で検査

「体外診断用医薬品」または「第1類医薬品」
と表示のあるものを予め購入しておきましょう。

検査キットで陽性となったら、
東京都陽性者登録センターへ登録



東京都陽性者
登録センター



受診を迷った場合は、**東京都発熱相談センター**や、
#7119（救急相談センター）、#8000（小児救急相談）などを利用

重症化リスクの高い方の外来受診・療養の流れ

65歳以上の方

基礎疾患がある方

妊婦

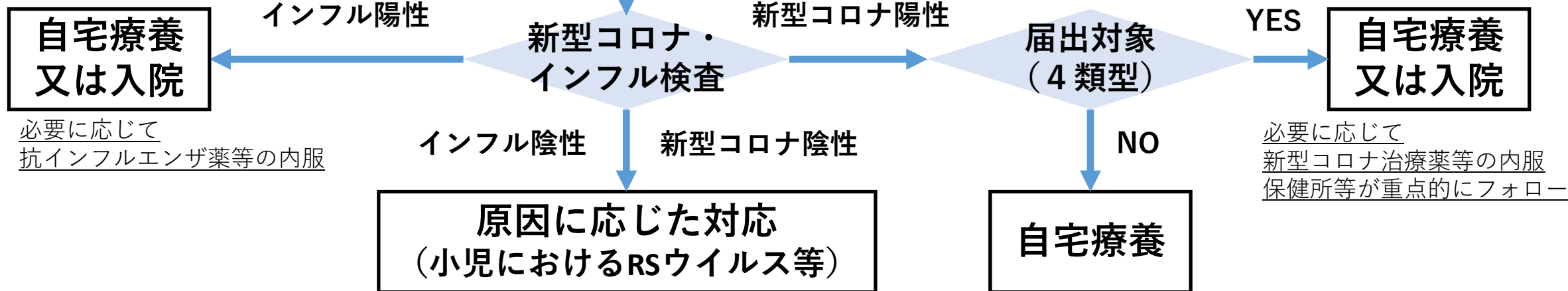
子供
(小学生以下)

速やかに受診 (迷った時は発熱相談センター等に電話相談)

発熱外来等

発熱外来等の情報は
都のHPに掲載

※小学生以下の子供はかかりつけ医を受診



必要に応じて
抗インフルエンザ薬等の内服

必要に応じて
新型コロナ治療薬等の内服
保健所等が重点的にフォロー

※自宅療養中の体調変化時等には、
受診した医療機関や「うちさぽ東京」に相談

健康観察や宿泊療養、配食等の支援を希望する方は、
陽性者登録センターに登録

重症化リスクの低い方の外来受診・療養の流れ

重症化リスクの低い方

(65歳以上の方、基礎疾患を有する方、妊婦などと小学生以下の子供以外の方)

発熱時に備えて、新型コロナ検査キット、
解熱鎮痛薬等を備蓄

(必要に応じて、都の有症状者向け検査キット配布を申込)

新型コロナ陰性

新型コロナ検査キット
での自己検査

新型コロナ陽性

オンライン診療に対応
する医療機関等の情報は
都のHPに掲載

(特に診察や薬の処方
を希望する場合)
オンライン診療

陽性者登録

症状が重いなど
受診を希望する場合
(迷った時は発熱相談センター等に電話相談)

発熱外来等

(コロナ非対応の医療機関、オンライン診療でも対応)

陽性者
登録センター

発熱外来等

(発熱外来受診のフローへ)

インフルエンザ
診断

インフル
診断

自宅療養
又は入院

自宅療養

インフル以外と診断

原因に応じた対応

必要に応じて
抗インフルエンザ薬等の内服
(お近くの薬局での受取又は配送)

希望する方には、健康観察や
宿泊療養、配食等の支援を実施

※自宅療養中の体調変化時等には、
受診した医療機関や「うちさぽ東京」に相談

(参考) 外来医療体制整備計画 発熱外来等の体制

✓ 発熱外来等を受診する可能性のある方 最大8.7万人/日 に対して、診療可能人数 **12.7万人/日**を確保

		平日	土	日・祝
発熱外来等の診療可能人数		10.2→12.7万人/日 +2.5万	5.7→7.8万人/日 +2.1万	1.7→3.1万人/日 +1.4万
	発熱外来	8.8→10.5万人/日 +1.7万	4.9→6.2万人/日 +1.3万	1.6→2.4万人/日 +0.8万
	小児科（発熱外来以外）	1.2→1.4万人/日 +0.2万	0.7→0.9万人/日 +0.2万	0.03→0.05万人/日 +0.02万
	地域外来・検査センター	0.2→0.3万人/日 +0.1万	0.1→0.2万人/日 +0.1万	0.1→0.2万人/日 +0.1万
	オンライン診療（自治体関与分）	0.0→0.5万人/日 +0.5万	0.0→0.5万人/日 +0.5万	0.0→0.5万人/日 +0.5万

※自己検査で新型コロナ陰性が判明した方は、コロナ非対応の医療機関も対応

✓ 陽性者登録センターの登録見込数 最大4.1万人/日 に対して、登録対応能力 **4.1万人/日**を確保

	毎日
陽性者登録センターの登録対応能力	0.8→4.1万人/日 +3.3万